

各 位

唐津農林事務所東松浦農業振興センター長

稲作情報第2号

1. 気象概要 (アメダス: 唐津地点)

月	半旬	平均気温 (℃)		最高気温 (℃)		最低気温 (℃)		降水量 (mm)		日照時間 (h)	
		平年	R8	平年	R8	平年	R8	平年	R8	平年	R8
6	1	20.9	21.4	25.2	25.3	17.3	18.8	18.2	28.5	27.3	7.4
	2	21.4	21.1	25.4	25.2	18.2	17.4	27.2	13.5	24.5	31.2
	3	21.9	22.0	25.7	27.9	19.0	17.3	40.5	0.0	22.3	40.1
	4	22.4	24.6	26.1	29.2	19.6	21.4	54.5	26.0	20.6	11.4
	5	23.0	21.9	26.6	24.4	20.4	20.4	65.1	217.5	17.8	6.1
	6	23.9	22.0	27.3	26.2	21.3	19.3	73.6	63.5	14.8	25.9
7	1	24.7	23.9	28.0	27.6	22.2	21.2	87.3	252.5	15.2	9.5
	2	25.3	27.7	28.7	32.2	22.8	24.0	92.9	11.0	19.9	44.7

6月4半旬までの平均気温は平年並み～やや高く推移したが5半旬以降は平年より1～2℃程度低く推移した。6月の降水量は、4半旬までは平年より少なかったが(平年比48%)、5半旬以降まとまった降雨(6/22～6/24:280mm)があり、平年より多くなった(平年比125%)。6月の日照時間は、平年並みとなったものの、4半旬及び5半旬は平年より短かった。

7月1半旬は、降水量が多く(7/1～7/6:263.5mm)曇雨天が続いたことから、気温はやや低く、日照時間は短く推移した。

九州北部の梅雨明けは、7月8日頃(平年より11日早い)となった。

2. 生育状況 (調査日: 7月9日)

項目 品種 (設置場所)	年 次	草丈 cm	茎数 本/㎡	主 稈 出葉数 L	葉色 SPAD	概 要
コシヒカリ 唐津市厳木 町天川 5/16 移植 標高 550m	本年値	66.9	426	10.6	39.8	・草丈は平年よりやや高い ・茎数は平年並み ・出葉は平年並み ・葉色は平年より淡い
	平年値	64.4	431	10.9	41.6	
	平年比	104	99	-0.2	-1.8	

項目 品種 (設置場所)	年 次	草丈 cm	茎数 本/㎡	主 稈 出葉数 L	葉色 SPAD	概 要
夢しずく 唐津市相知 町伊岐佐 6/12 移植 標高 70m	本年値	36.1	196	8.4	39.7	・草丈は平年より低い ・茎数は平年より少ない ・出葉は平年より早い ・葉色は平年並み
	平年値	39.1	263	7.6	39.5	
	平年比	92	74	+0.8	+0.2	
項目 品種 (設置場所)	年 次	草丈 cm	茎数 本/㎡	主 稈 出葉数 L	葉色 SPAD	概 要
さがびより 唐津市相知 町相知 6/20 移植 標高 10m	本年値	30.9	195	7.2	40.6	・草丈は平年より低い ・茎数は平年より少ない ・出葉は平年より遅い ・葉色は平年より淡い
	平年値	33.6	225	8.1	42.1	
	平年比	92	87	-0.9	-1.5	

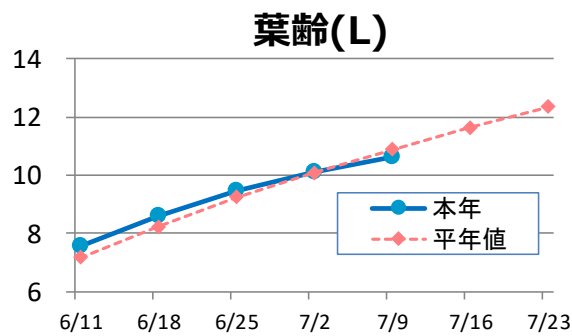
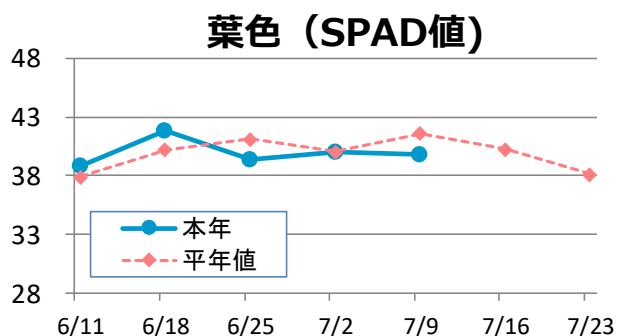
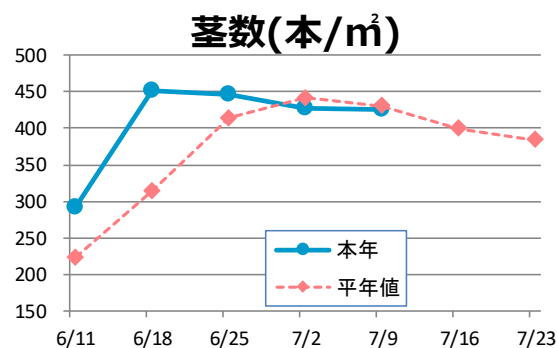
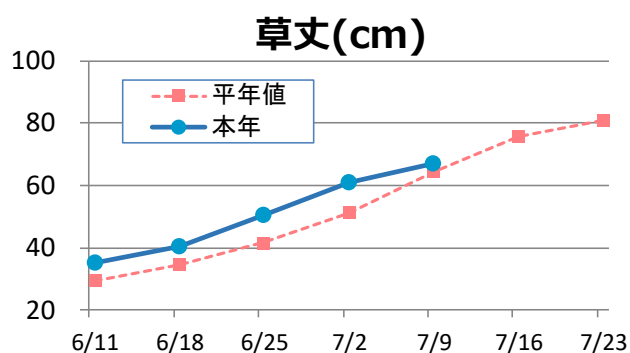
※平年比の【草丈】【茎数】は平年比、【主稈出葉数】【葉色】は平年差で表記している。

(1) 山間早植え

作況ほの「コシヒカリ」の幼穂形成始期は7月4日頃となり平年並みとなり、7月末～8月初旬頃の出穂が見込まれる。

山間「コシヒカリ」及び「にじのきらめき」において、いもち病の発生を確認している。

◎コシヒカリ作況圖の生育グラフ(厳木町天川)



(2) 普通期水稻

作況圃の「夢しずく」及び「さがびより」両品種ともに茎数は平年より少なく推移している。特に、移植後に曇雨天が続いた「さがびより」は、主稈出葉数が少なく生育が停滞している。梅雨明け（7月8日頃）後、天候が回復傾向であることから、今後の生育回復が見込まれる。

梅雨明け後、気温が高く推移していることから、スクミリンゴガイの活動が活発となり食害を受けた圃場が増加傾向にある。

現時点でウンカ類の発生は確認できていないが、「夢しずく」では本圃及び補植用の置き苗において、いもち病の発生を確認している。

3. 今後の管理

(1) 山間早植え

①栽培管理

《水管理》

- ・幼穂形成期を迎えているため中干しは終了し間断灌水へ移行する。
- ・幼穂形成期から穂揃期はイネが最も水を求める時期であるため、間断灌水での管理とし、出穂期前後1週間は湛水管理とする。土壌表面が白く乾く白乾状態は避ける。
- ・断続的な降雨により十分な中干しができなかった圃場では、間断灌水の落水期間を長めにとるなどして田面を固める。

【間断灌水】

- ・入水後、自然落水させ、右の写真のように足跡に水が残る状態になったら入水する水管理を繰り返す水管理方法である。



間断灌水

《肥培管理》

- ・5月中旬に移植された圃場では、穂肥の施用時期を迎えている。
- ・穂肥の時期を逸しないよう、穂肥診断基準（稲作情報第1号参照）に基づき穂肥を適切に施用する。なお、特別栽培「コシヒカリ」でなたねペレットを施用する場合は、窒素肥効の発現に時間を要するため幼穂長が1～2mm確認できた段階で穂肥診断を行い穂肥を施用する。
- ・今年も夏場の高温が予想されており、登熟期の栄養不足を防ぐためにも葉色がさめている圃場では積極的に穂肥を施用する。

(2) 普通期水稻

①栽培管理

《水管理》

- ・浅水管理により分けつを促進する。
- ・有機物を施用している圃場や湛水状態が続いた圃場等では、ガスの発生が多くなることから、移植後15日及び25日を目安に半日～1日程度落水しガス交換を行う。
- ・有効茎数20～25本/株が確保できた圃場は、順次中干しへ移行する。
- ・中干しは田面に軽く亀裂が入る程度とし、手が入るほどの亀裂ができるような過度な中干しは避ける。

【中干しの目的】

- ① 無効茎の発生防止や下位節間の伸張防止
- ② 窒素制限による生育量の適正化
- ③ 有害物質の除去及び土壌酸化による根の健全化
- ④ 地耐力を高め倒伏を防ぐ



適度な中干し

(3) 病虫害・雑草管理(山間早植・平坦普通期共通)

《雑草関係》

- ・「ホタルイ、オモダカ、ノビエ類」の後発生が多い圃場では、散布時期を逸しないように中後期除草剤を処理する。ただし、特別栽培の圃場では農薬成分カウント数に注意する。



【花茎伸長したホタルイ(草丈 20cm)】



【バサグラン粒剤散布後】

《病虫害関係》

①スクミリンゴガイ(通称:ジャンボタニシ)

- ・移植後2週間頃までの稚苗が摂食されやすいため、本貝が生息している地域では、移植後の農薬防除や浅水管理の徹底により被害防止に努める。
- ・メタアルデヒド粒剤は、残効が散布後数日と短いため、毎年被害が多い圃場では1回目の薬剤散布してから約1週間後に2回目の防除を行うことで被害軽減効果が高くなる。
- ・特別栽培を行っている圃場では農薬成分カウント数に限りがあるため、農薬成分カウントに影響しないリン酸第2鉄資材などを用いて防除を行う。

②トビイロウンカ

- ・佐賀県農業技術防除センターの調査では、以下の表のとおり6月上旬から複数回にわたって、断続的な飛来が確認されている(表1)。
- ・今後は、本種の増殖に好適な気象条件が予想されることから、圃場での発生状況に注意するとともに、発生予測図(山間・早植え水稻:図1、普通期水稻:図2)を参考に適期防除に努める。
- ・防除は、効果の最も高い幼虫ふ化揃期に実施するとともに、圃場は湛水状態とし、薬剤は株元まで届くように留意する。

表1 ウンカ類・コブノメイガのトラップ捕獲状況(2026年)

月日		トビイロウンカ				セジロウンカ				コブノメイガ							
		佐賀県		長崎県		佐賀県		長崎県		佐賀県							長崎県
		佐賀市	嬉野市	諫早市	諫早市	佐賀市	嬉野市	諫早市	諫早市	佐賀市	佐賀市	神埼市	伊万里市	白石町	武雄市	諫早市	
		ネット トラップ ⁺	ライト トラップ ⁺	ライト トラップ ⁺	ネット トラップ ⁺	ネット トラップ ⁺	ライト トラップ ⁺	ライト トラップ ⁺	ネット トラップ ⁺	フェロモン トラップ ⁺ A	フェロモン トラップ ⁺ B	粘着トラッ プ ⁺ (20W蛍 光灯)	フェロモン トラップ ⁺	フェロモン トラップ ⁺	粘着トラッ プ ⁺ (20W蛍 光灯)	フェロモン トラップ ⁺	
6月	1日	0	0	0	0	0	0	0	0	0					0	0	
	2日	0	欠測	0	0	0	欠測	0	0	0		0			0	0	
	3日	欠測	1	0	0	欠測	0	0	0							0	0
	4日	0	0	0	0	0	17	0	1								0
	5日	0	0		0	0	0	0	1				0			0	1
	6日	0	1	0	0	0	1	1	0								0
	7日	0	0	0	0	0	0	0	0								0
	8日	0	0	0	0	0	0	0	0	0						0	
	9日	0	0	0	0	0	0	0	0				0			0	0
	10日	0	0	0	0	0	0	0	0								1
	11日	0	0	0	0	0	0	0	0								0
	12日	0	0	0	0	0	0	0	0				0			0	1
	13日	0	0	0	0	0	0	0	0								0
	14日	0	0	0	0	0	0	0	0	0						1	
	15日	0	0	0	0	0	1	0	0								0
	16日	0	0	0	0	0	1	0	0				0			0	0
	17日	0	1	0	0	0	1	0	0								0
	18日	0	4	0	0	0	4	0	0								0
	19日	0	0	0	0	0	1	0	1				0			5	6
	20日	0	8	0	0	0	4	0	0	0						44	
	21日	0	0	0	0	0	0	0	1								8
	22日	0	0	0	0	0	1	0	0								12
	23日	0	0	0	0	0	2	0	0				0	2		22	6
	24日	0	0	0	0	0	29	4	0								11
	25日	0	0	0	0	0	47	0	0								1
	26日	0	1	0	0	0	106	4	0	0						0	
	27日	0	1	0	0	0	11	0	0				0	1	0	10	1
	28日	0	0	0	0	0	4	0	1								0
	29日	0	0	0	0	0	1	0	0		0						0
	30日	0	0	0	0	0	3	1	0		0		0	3	0	1	0
7月	1日	0	12	0	0	0	7	5	2		0	0					0
	2日	0	11	0	0	0	7		0	0	0					0	
	3日	0	2		0	0	8		0	0	0			0	4	0	
	4日	0	22		0	0	46		0	0	0					0	
	5日	1	3		0	2	32		0							0	
	6日	0	99			2	111			0	0						
	7日									0	0						
	8日									1	0						

注1) ウンカ類: 佐賀市のネットトラップは、農業試験研究センターで調査(回収日で集計)。嬉野ライトトラップ(予察灯)は農業技術防除センターで調査。6月2日の嬉野ライトトラップは、装置の不具合により欠測。

注2) コブノメイガ: 神埼市、白石町、伊万里市、武雄市は防除員が調査。佐賀市のフェロモントラップは農業試験研究センターで調査。

※長崎県のデータは、長崎県農林技術開発センター 環境研究部門 病害虫発生予察室提供。

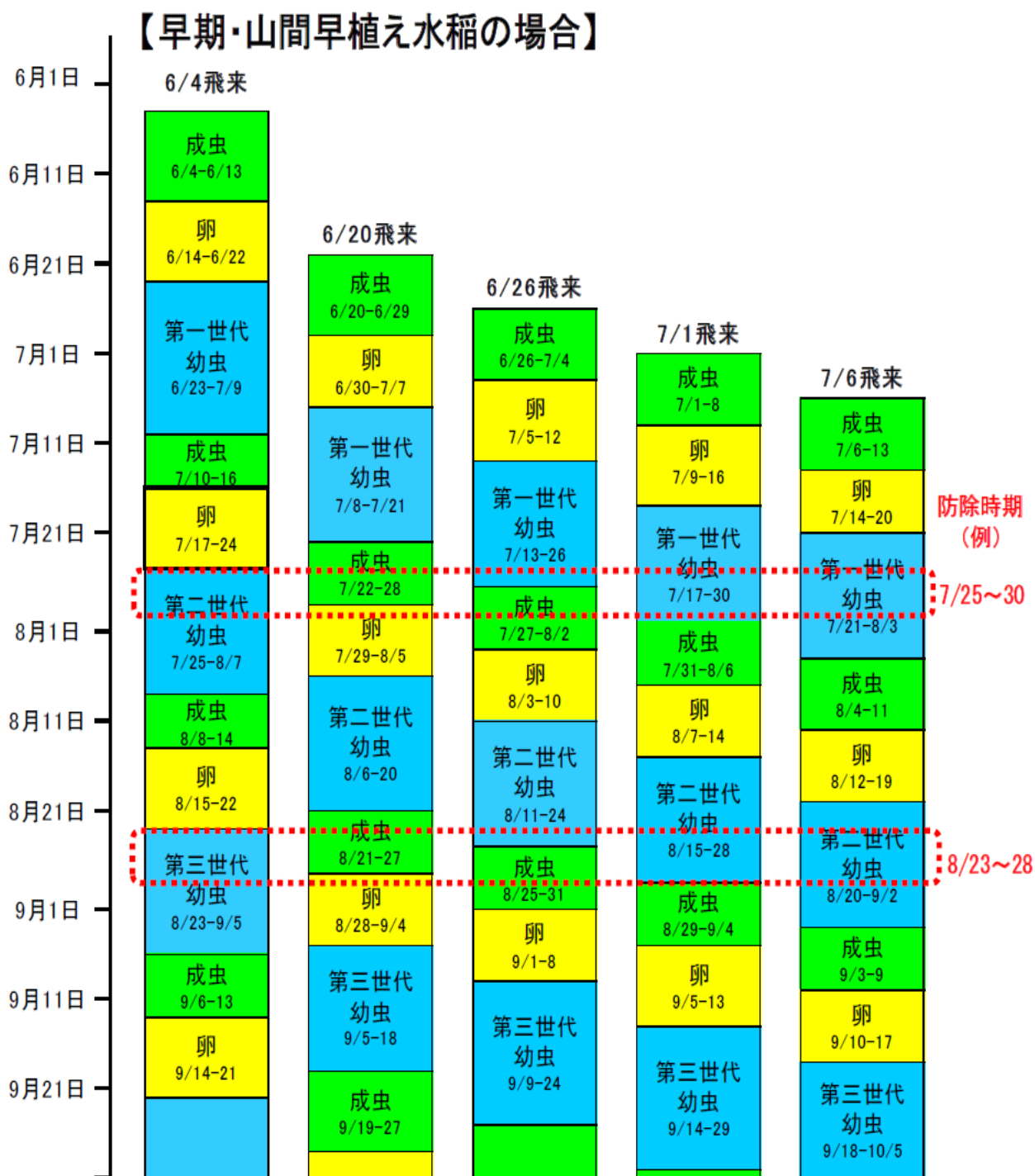


図1 早期・早植え水稻でのトビイロウンカ各世代の発生予測（第1版、2026年7月8日作成）

1. 6月3～6日頃（図では6月4日）、6月17～20日頃（図では6月20日）、6月26～27日頃（図では6月26日）、7月1日～2日頃（図では7月1日）、及び7月4日～6日頃（図では7月6日）の飛来虫を起点とし、トビイロウンカの有効積算温度及び佐賀市川副町のアメダスデータ（7月8日以降は平年値）に基づき作成した。三角法を用い、発育零点 12℃、発育上限温度 28℃、発育停止温度 33℃とした。
2. 赤枠囲みは、発生予測からみた防除時期（例）を示す。
3. 田植え時期、品種等の違いによって、本虫の発生量は異なるので、必ず圃場ごとの発生状況を確認したうえで、防除対策を講じる。
4. 今後の気象経過等に応じて、本図は随時、更新するので、最新情報は、農業技術防除センターのホームページで確認する。

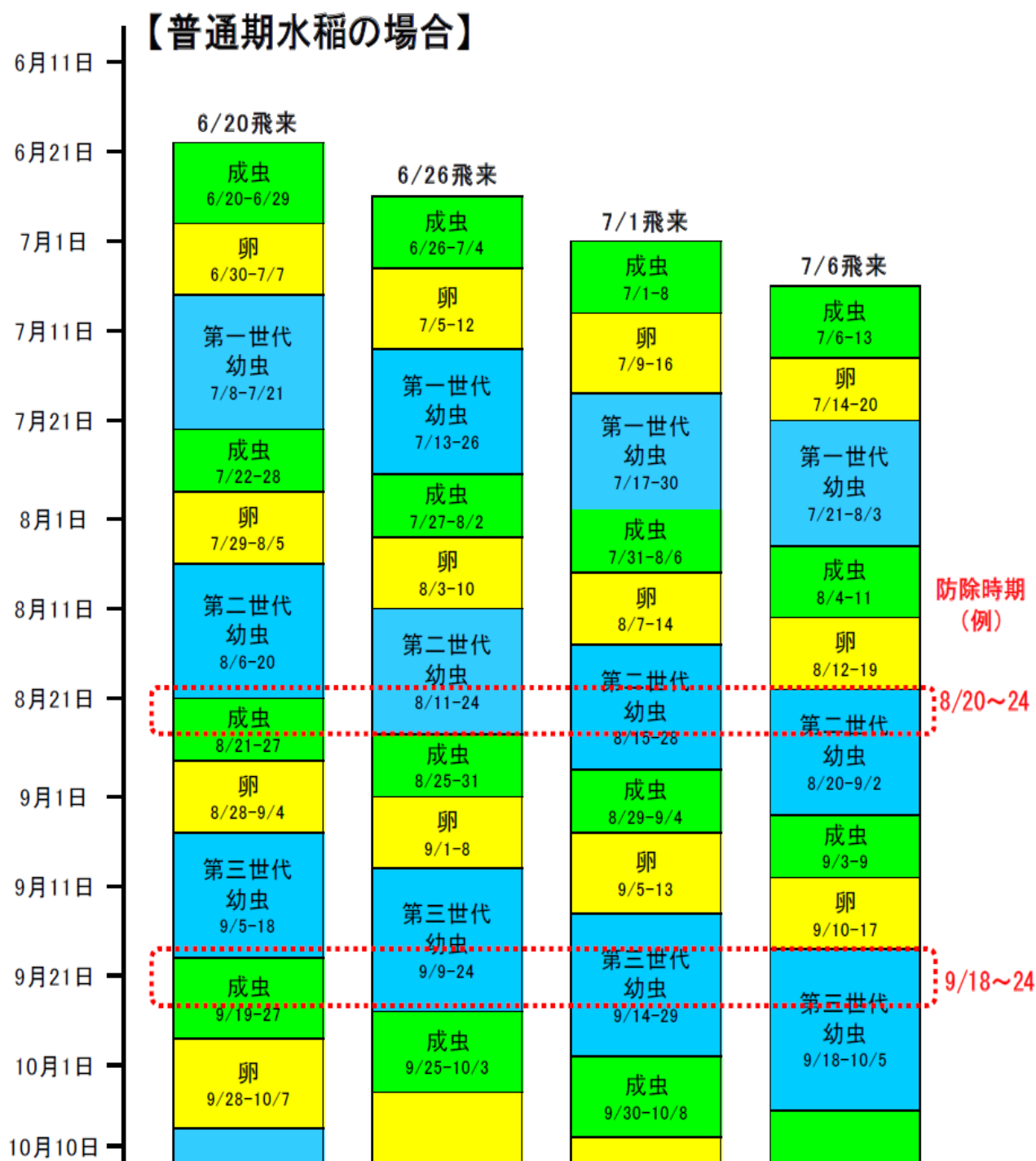


図2 普通期水稻でのトビイロウンカ各世代の発生予測（第1版、2026年7月8日作成）

1. 6月17～20日頃（図では6月20日）、6月26～27日頃（図では6月26日）、7月1日～2日頃（図では7月1日）、及び7月4日～6日頃（図では7月6日）の飛来虫を起点とし、トビイロウンカの有効積算温度及び佐賀市川副町のアメダスデータ（7月8日以降は平年値）に基づき作成した。三角法を用い、発育零点 12℃、発育上限温度 28℃、発育停止温度 33℃とした。
2. 赤枠囲みは、発生予測からみた防除時期（例）を示す。
3. 田植え時期、品種等の違いによって、本虫の発生量は異なるので、必ず圃場ごとの発生状況を確認したうえで、防除対策を講じる。
4. 今後の気象経過等に応じて、本図は随時、更新するので、最新情報は、農業技術防除センターのホームページで確認する。

③いもち病

- ・6月4半旬以降の曇雨天により、管内「コシヒカリ」、
「夢しずく」及び「にじのきらめき」、その他圃場に放置
されている補植用の置き苗において、いもち病の発生
を確認している。
- ・補植用の置き苗は、いもち病の発生源となるため、速
やかに圃場から撤去する。
- ・いもち病の進展型病斑が確認された場合は、農薬成
分カウントや収穫前日数に留意しながら、オリブライト
250G 等で臨機防除を実施する。



いもち病(停止型)



いもち病(進展型)

【BLASTAM 情報】

- ・唐津地域では6月23日に感染好適条件が出現して
いる。
- ・感染好適条件が出現した1週間後から初発生や病斑
の増加が予想されるため、圃場を注意深く確認すると
ともに、発生が確認された場合は適切に防除する。

BLASTAM情報第3号(葉いもち感染好適条件の出現状況)(2026年7月13日更新)

月	日	佐賀					福岡			長崎	
		唐津	伊万里	佐賀	嬉野	白石	前原	太宰府	久留米	松浦	佐世保
6月	1日	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	2日	●	●	—	●	●	—	—	—	—	●
	3日	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	4日	—	—	—	—	—	●	—	—	—	—
	5日	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	6日	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	7日	—	—	—	●	—	—	—	●	—	—
	8日	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	9日	●	●	—	—	●	●	—	—	●	●
	10日	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	11日	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	12日	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	13日	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	14日	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	15日	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	16日	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	17日	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	18日	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	19日	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	20日	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	21日	—	●	—	—	—	—	2	2	—	—
	22日	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	23日	●	4	—	—	●	●	●	●	●	—
	24日	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	25日	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	26日	—	—	—	—	—	●	—	—	—	—
	27日	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	28日	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	29日	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	30日	—	—	—	—	—	—	—	—	—	?
7月	1日	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	2日	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	3日	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	4日	—	—	—	●	—	—	●	—	—	●
	5日	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	6日	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	7日	—	—	—	—	—	●	3	—	—	—
	8日	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	9日	—	—	—	—	—	—	—	—	—	?
	10日	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	11日	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—

- 1 : 準好適条件 (湿潤時間は10時間以上であるが、前5日間の平均気温が20℃未満)
2 : 準好適条件 (湿潤時間は10時間以上であるが、前5日間の平均気温が25℃以上)
3 : 準好適条件 (湿潤時間は10時間以上であるが、湿潤期間中の平均気温が15～25℃の範囲外)
4 : 準好適条件 (湿潤時間が湿潤期間中の平均気温ごとに必要な時間数より短い)
● : 好適条件 (湿潤時間が長く気温も適当で、葉いもちの感染好適条件が出現した)
— : 好適条件の出現なし
? : 判定不能

④カメムシ類

(斑点米カメムシ類)

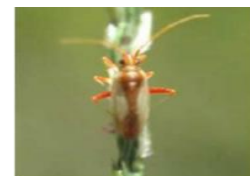
- ・県では、早期水稻を対象に令和8年6月22日に斑点米カメムシに対する注意報を発令した(令和8年6月22日付け佐農技防第281号)。
- ・県農業技術防除センターが県内のイネ科雑草地で行った調査では、斑点米カメムシの発生量が平年よりかなり多く、今後の吸汁被害が懸念される。
- ・畦畔雑草は斑点米カメムシの増殖・飛来源となるため、耕種的防除として出穂10日前までに除草作業を行う。それ以降に除草作業を行うと、畦畔に生息する斑点米カメムシが圃場内に移動し被害が助長される。
- ・斑点米カメムシ類の防除適期は、乳熟期(出穂約10日後)、発生が多い場合は穂揃い期と乳熟期の2回防除を実施し、被害防止に努める。



クモヘリカメムシ



ホソハリカメムシ



アカスジカスミカメ

【佐賀県農業技術防除センターの調査結果(注意報より一部抜粋)】

表1 イネ科雑草における斑点米カメムシ類のすくい取り調査結果(6月後半調査)

	クモヘリ カメムシ	ミナミア カメムシ	ホソハリ カメムシ	アカスジ カスミカメ	シラホシ カメムシ類	イネ カメムシ
本年(R8)	72.5	9.2	4.0	46.4	0.5	0.1
平年比	多	多	多	並	並	並
平年	1.7	0.1	1.2	35.3	0.5	0.0
前年(R7)	0.4	0.1	1.7	14.6	0.1	0

注) 表中の数値は、すくい取り調査(捕虫網20回振り)における地点当たりの平均捕獲虫数。
平年値は過去10年(H28~R7)の平均値。

(イネカメムシ)

- ・出穂期にイネカメムシに加害されると不稔粒となり減収となる。
- ・近年、県内においても発生が確認されており、被害の拡大が懸念されている。
- ・特に周辺より出穂が早い、または遅い圃場では飛来が集中し被害が大きくなる可能性があるため、圃場をよく観察し、発生が多い場合は、出穂期の防除を行う。

※穂ぞろい期に防除を行う斑点米カメムシとは防除適期が異なるため注意する。



イネカメムシ

令和8年産 稲作期間気象図

アメダス観測値(唐津)

東松浦農業振興センター

